

公共事業継続箇所評価調査

(様式5)

評価確定日(令和7年 9月30日)

事業コード	R7-建-継-04	区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業(改築)	部局課室名	建設部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)	チーム名	道路建設チーム (tel)018-860-2492
路線名等	主要地方道 秋田雄和本荘線	担当課長名	道路課長 石川 康樹
箇所名	秋田市相川(水沢橋)	担当者名	チームリーダー 高野 健一
プランとの 関連	戦 略	生活環境	
	目指す姿	安らげる生活基盤の創出	
	施策の方向性	安全・安心を支える生活道路の整備	

1. 事業の概要

事業期間	H24 ~ R8 (15年)	総事業費	61.8 億円	国庫補助率	0.55	
事業規模	○延長L=1,360m(バイパスL=960m、現道改良L=400m)、橋梁架替1橋(L=291m)、幅員W=6.5(12.0)m					
事業の立案 に至る背景	○秋田雄和本荘線は秋田市と由利本荘市を結ぶ幹線道路であり、旧雄和町内では日常生活を支える道路の役割を担っている。また、接続する雄和岩城線と併せて由利本荘市から秋田空港へのアクセス道路として機能するなど当路線の重要度は高い。しかし、当区間内の水沢橋は歩道がなく歩行者は車道を歩かせざるを得ず危険にさらされている。また、橋の構造から大型車は高さ3.1m以下に制限されており、それ以上の大型車は迂回を余儀なくされているほか、幅員が狭くすれ違いが困難である。 このため、安全で円滑な交通の確保を図るため、橋梁を新たに架け替えるとともに、狭隘な現道部のバイパス化を図るものである。					
事業目的	○秋田空港へのアクセス性の向上や地域内交流の活性化 ○車両のすれ違い困難箇所の解消 ○安全な歩行空間の確保 ○緊急輸送道路としての機能確保(第二次緊急輸送道路) ○老朽橋対策、重交通への対応(TL-14→B活荷重)					
事業費内訳 (単位:千円)			前回評価	今回評価	増減	理由等
	事業費		5,246,411	6,181,000	934,589	
	内訳	経費	4,672,768	5,500,000	837,232	機材物価等の上昇に伴う増旧橋撤去にかかる仮設計画の見直しによる増 橋梁添架物移設補償による増 積算資料作成業務等委託費の増
		工事費	365,860	444,000	78,140	
		その他	207,783	237,000	29,217	
	内訳	国庫補助	2,885,526	3,370,286	484,760	
		県債	2,124,796	2,481,757	356,961	
		その他	0	53,206	53,206	
一般財源		236,089	275,751	39,662		
事業内容		調査・設計 改良工 舗装工 橋梁工	調査・設計 改良工 舗装工 橋梁工			
事業の進捗 状況	○令和6年度末で事業進捗率89%(用地進捗率は100%) ○令和5年3月に全線供用済み					
事業推進上 の課題	○特になし					
関連する計 画等	○道路改良工事(相川工区(H10~H17)、女米木工区(H12~H22))					
情勢の変化 及び長期継 続の理由	○特になし					
事業効果把 握の手法及 び効果	指標名	県管理道路における道路改築率(年度)				
	指標式	改築率(県管理道路改築済延長/県管理道路実延長)				
	指標の種類	● 成果指標 ○ 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目標値 a	52.2%(R7末)	データ等の出典	県調べ		
	実績値 b	52.2%(R6末)				
達成率 b/a	100.0%	把握の時期	令和7年4月			

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	<ul style="list-style-type: none"> ○旧雄和町相川、戸米川地区の日常生活を支える道路であるとともに、空港へのアクセス道路としての機能も有しているため交通量が多いが、水沢橋は大型車両同士のすれ違いが困難であり、歩行空間も確保されていない。 ○通学路指定されているが、歩道がなく車道を歩かざるを得ない。 	8 点
緊 急 性	<ul style="list-style-type: none"> ○水沢橋は昭和35年に架設された設計荷重TL-14、4径間鋼製トラス橋であり、これまでも補修工を実施してきたが、構造上拡幅が困難であるため大型車の交通需要に対応するには早期の架替が必要である。 ○災害等により、現橋が通行止めになった場合、20km以上迂回する必要がある。(国道341号新波橋) 	15 点
有 効 性	<ul style="list-style-type: none"> ○第二次緊急輸送道路としての機能を確保できる。 ○旧雄和町妙法地区には行政、消防等機関 (雄和市民センター、河辺消防署雄和分署等)のほか、災害時の避難箇所となる施設 (雄和体育館、雄和中学校等)もある。橋梁架替等により、避難時の安全性が確保されるほか緊急車両等の定時性、速達性も向上する。 	30 点
効 率 性	<ul style="list-style-type: none"> ○事業の費用便益比は1.76であり、効率性は高い。 <ul style="list-style-type: none"> ・総便益の現在価値 127.8億円 ・総費用の現在価値 72.5億円 ○他工区の建設発生土を盛土材に使用しコスト削減を図っている。 	20 点
熟 度	<ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度末の事業進捗率は89%である (用地進捗率は100%)。 	20 点
判 定	ランク (●I ○II ○III) 緊急性、有効性、効率性、熟度が高く、事業は引き続き実施すべきである。	93 点
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

<p>残工事は旧橋撤去であり、経済的な仮設工法を選定する等コスト削減に努めながら、事業を継続する。</p>

4. 公共事業評価専門委員会意見

<p>県の対応方針を可とする。</p>

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 道路改築事業 (地域内・生活圏交通促進)

事業コード (R7-建-継-04)
箇所名 (秋田市相川 (水沢橋))

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員<5.5m ・最小半径<100m ・最急勾配>4% ・冬期堆雪巾なし	3箇所以上	8	5	・最小半径38m ・冬期堆雪巾なし 2箇所
		2箇所	5		
		1箇所	3		
		該当箇所なし	0		
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度≥1.0 ・走行速度≤30km/h ・現道の事故率≥50件 ・重大交通事故が発生 ・通学路指定で歩道なし ・バス路線で歩道なし	3項目以上該当	7	3	・通学路指定で歩道なし 1項目
		2項目該当	5		
		1項目該当	3		
		該当項目なし	0		
	計		15	8	
	緊急性	道路を取り巻く環境等			
関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業		あり	5	5	相川工区、女米木工区
		なし	0		
緊急度の高い課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、迂回路の確保 冬期通行不能区間等		あり	5	5	水沢橋
		なし	0		
同一路線の整備状況		整備済み	5	5	整備済み
		未整備	0		
計			15	15	
有効性		道路の位置付け			
	地域コミュニティの確保 (公共交通、公共施設・交流施設など)	該当する	7	7	雄和市民サービスセンター
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス	アクセス性向上に大きく貢献	8	8	秋田赤十字病院、秋田南消防署雄和分署
		アクセス性向上に貢献	6		
		アクセス性向上に一定の効果	4		
	地域防災計画重要な道路	該当する	7	7	第2次緊急輸送道路
		該当しない	0		
	社会変化による事業の必要性	必要性が高い	8	8	幅員狭小で急カーブが多数あり、歩道も無いため歩行者の安全確保等に支障あり
		必要性が低下傾向	4		
必要性が著しく低下		0			
計		30	30		
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	1.76
		1.0未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	5	5	5,600台/日
		500台/日以上1,000台/日未満	3		
		300台/日以上500台/日未満	1		
		300台/日未満	0		
	コスト削減	あり	5	5	他工区の発生土を盛土材に使用
		なし	0		
	事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	大規模バイパス
既投資額の部分的損失		4			
既投資額の損失が少ない		3			
計		20	20		
熟度	事業の進捗状況				
	事業の推進	地域や市町村からの要望書等が提出されている	6	6	地域からの要望書あり
		地域や市町村からの要望書等が未提出である	0		
	事業の進捗 (事業費)	8割以上完了	7	7	89%
		5割以上完了	5		
		1割以上完了	3		
		1割未満	1		
	用地買収の進捗 (面積)	8割以上完了	7	7	100%
		5割以上完了	5		
		1割以上完了	3		
1割未満		1			
未着手	0				
計		20	20		
合計			100	93	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		